

文教協会報

No.684

(令和6年7月)

まなびの泉
心のかよいあい

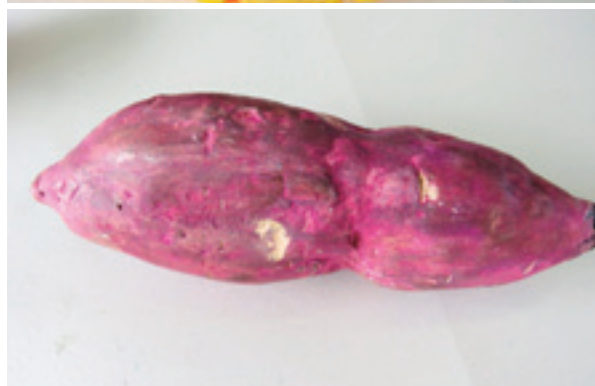
わくわく協働活動
ぬくもり

ふるさと・再見
声 こえ VOICE
～文教のまち 大垣～
ふるさと美術散歩⑦

法教育、スクールサポートスタッフについて……………2
『上石津学園開校～ゼロからのスタート～』(上石津学園)…3
夜のドキドキ学校探検(西小学校)……………3
軽スポーツ体験イベント「みんなのスポーツ」……………4
大垣市の情報モラル教育……………5
なぞの大垣城主 伊藤^{もりかけ}盛景・^{もりまさ}盛正父子……………6
さらに魅力アップ! 来て見て大垣城!!……………7
第61回 大垣市文教協会総会……………8
大垣市守屋多々志美術館を訪ねて……………8



文教協会報 NO.685号からは、
「大垣市×SDGsお化け」の受賞作品を表紙にて紹介して
いきます。

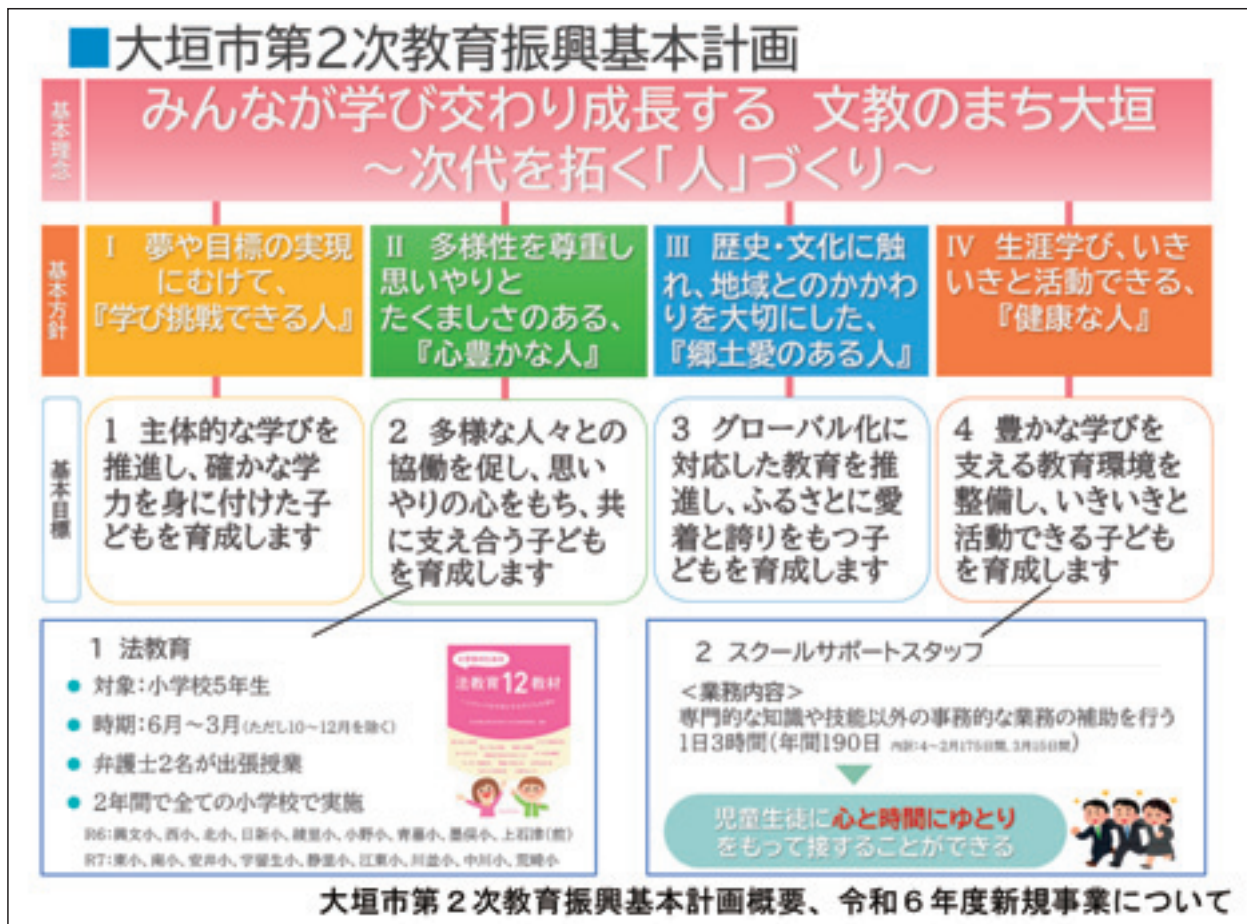


大垣市立北中学校生徒の作品



ー法教育、スクールサポートスタッフについてー

大垣市教育委員会では、大垣市第2次教育振興基本計画に基づいて、さまざまな事業を計画・実施しています。今回は、令和6年度の新規事業の2つを紹介します。



1 法教育

「いじめの増加を止めるために何かできることはないか」と考え、規範意識を高めていく教育や人権教育の必要性があると考え、新たに法教育の事業を行います。そこで今年度から、法について、ある程度理解できる学年がよいと考え、小学校5年生を対象に、法律の専門家である弁護士2名が学校へ出向き、授業を行います。2年間ですべての小学校で実施する予定です。「きまりってなんのためにあるの？」等、学活や道徳として行うことができる内容になります。法の知識を教えるのではなく、生活や学習等、学校生活のさまざまな場面での対立を、主体的・対話的な学びをとおして学び、規範意識を育む一助としたいと考えています。

2 スクールサポートスタッフ

スクールサポートスタッフ（教員業務支援員）の方を配置、もしくは配置予定です。スクールサポートスタッフの業務内容は、教職員が児童生徒への指導や教材研究等に注力できるよう、事務的な業務の補助を行うことです。それにより、先生方にゆとりが生まれ児童生徒に触れ合う時間を増やすことを目的としています。

(学校教育課 鈴木 宏教)



『上石津学園開校～ゼロからのスタート～』

上石津学園 PTA会長 日比野 秀俊

上石津学園が4月に開校しました。上石津学園は、4つの小学校と1つの中学校が統合した、西濃地区初の義務教育学校です。開校にあたるまで、本当にいろいろな課題もありましたが、多くの方々の協力を得て、4月に素晴らしい開校式を迎えることができました。協力いただきました皆様、本当にありがとうございました。

上石津学園PTAは、新たな組織の構築のため「ゼロからのスタート」をスローガンに動き出しました。どうすると、保護者みんなで学園の子どもたちを支えていけるのか、そのためのPTAはどうするとよいのか、新たな学園のスタートとともに、PTAも大きく変える必要があると思っています。大きな変化の事例としては、昨年の上石津中学校での本部役員を26名としていましたが、上石津学園では本部役員を5名と大幅に組織を縮小させました。委員会という組織をなくし、保護者の方々からのエントリー制を取り入れることにしました。

「ゼロからのスタート」ということで、本年度は授業参観後の懇談会の場で、保護者の方々へ直接PTAについての説明をさせていただきました。特に、上石津学園PTAに対する思い、新たに変わっていききたい点や、保護者の方々が心配されている点について直接伝えることができました。その結果、駐車場誘導や清掃活動などに多くの方がエントリーしていただき、協力を得ることができました。上石津学園PTAは「ゼロからのスタート」になりますが、誰もが参加できる魅力ある活動を、保護者の方々とともにこれから創り上げていきます。



上石津学園PTA説明資料の一部

夜のドキドキ学校探検

西小学校 PTA会長 市川 貴浩

コロナ禍以降、PTA活動も大きく制限され、子どもたちのための行事も縮小せざるを得ない状況が続いていましたが、今では少しずつ以前の状態に戻りつつあるように感じています。

そんな中、西小学校では昨年7月に4年ぶりとなる「夜のドキドキ学校探検」を開催しました。

このイベントは、子どもたちが普段慣れ親しんでいる小学校をお化け屋敷に作り替え、保護者の方と一緒に学校内を探検し、夏休みの思い出を作ってもらうことを目的として実施しました。また、肝試しだけではなく、災害時の指定避難所となる小学校の夜間の状態を体験してもらうことも目的の一つです。

企画運営にあたっては、PTA執行部を中心に、ボランティア組織である「おやじの会」や有志のサポートスタッフの方々、また学校のご協力のもと、進めていきました。

少し不気味な印象がある図工室・音楽室といった特別教室や、真っ暗な廊下などにさまざまな工夫を凝らした恐ろしい仕掛けを作りました。また何かが写りこんでしまう記念写真を撮影するなど、いつもとは違った学校のこわ～い雰囲気を経験し、子どもたちの笑顔（と悲鳴！）に触れることができました。また、探検終了後は参加したみなさんにかき氷をふるまい、みんなで暑気払いをしました。

執行部のメンバーは誰一人として経験がない中で、すべてが手探り状態であったものの、過去の経験者の方々にスタッフとして参加していただけたおかげで、無事に終えることができたと思っています。

昨今のPTA活動は、保護者の負担がなるべく少なくなるよう時代に合わせて変革していく必要があるものの、子どもたちの思い出に残る活動は次代にも残していきたいと思っています。



夜のドキドキ学校探検の様子

軽スポーツ体験イベント 「みんなのスポーツ」



1 はじめに

大垣市スポーツ推進委員協議会では、気軽にスポーツを体験できるイベントとして、「みんなのスポーツ」を開催しています。小さいお子様から高齢者の方まで、体を動かし手軽に楽しむことができるスポーツを行うことによって、体を動かすことの楽しさを味わっていただくことを願っています。こうした活動をとおして、コミュニティスポーツの充実を図っていきたいと考えています。

2 令和6年度の開催

- ・日 時 令和6年10月13日（日）13:00～16:00
- ・場 所 大垣公園内
- ・申込み 当日受付（事前申込みの必要はありません）



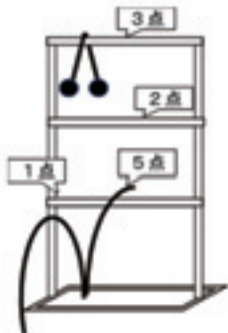
【受付の様子】

3 内容（軽スポーツを実施）

昨年度行われた軽スポーツを4つ紹介します。

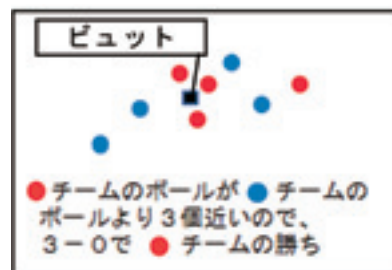
【ラダーゲッター】

- ①じゃんけんで先攻・後攻を決め、先攻から6つのボールを投げる。
- ②全部投げ終わったら、得点を計算し、得点の高い方が勝ち。ボールは、2つの球がひもでつながっており、地面にワンバウンドして引かかったら場所に関係なく5点となる。



【ペタンク】

- ①じゃんけんでビュットを投げるチームを決める。
- ②最初にビュットを投げたチームがボールを投げる。（先行）
- ③第2投は別のチームがボールを投げる。（後攻）
- ④その後は、ビュットより遠い方のチームがもう一方のチームより近くなるまで投げる。（なくなるまで）
- ⑤④を繰り返す。
- ⑥ボールが残っているチームはボールを全て投げる。相手のボールをはじき出すこともできる。
- ⑦得点を確認する。



【ノルディックウォーキング】

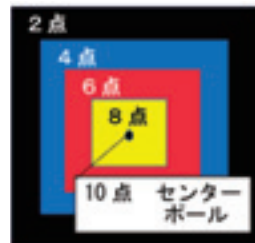
- ①2本のポールをそれぞれの手で握る。
- ②ポールを後ろに押し出すようにして歩く。



【ノルディックウォーキングの様子】

【クロリティー】

- ①じゃんけんで先攻、後攻を決め、先攻から1投ずつ交互に投げる。
- ②全部投げ終わったら得点を計算する。合計得点の高い方が勝ち。



昨年度は、この他にモルック、ケン・ケン・パ、縄跳び、フラフープを行い、計8種類の軽スポーツを行いました。軽スポーツを楽しんでいただけるよう記録用紙を準備し、記録を記入しながら体験していただきました。

今年度も多くの皆様の参加をお待ちしております。

（社会教育スポーツ課 水野 哲也）

大垣市の情報モラル教育

1 はじめに ～目指す児童生徒の姿～

SNSは、世界中の人と繋がれる便利なものだけど自分の投稿した動画や写真で傷つく人がいたり、取り返しのつかないことになったりすることがわかった。来年携帯電話を買ってもらえるので投稿時は誰が見てもよい内容なのかをしっかりと考えた。また、災害時などの連絡や、仕事などの面で便利な点も多いのでうまく活用していければよいと思う。

これは、昨年度A中学校で行った情報モラル教育の事後アンケートにおける生徒の振り返りです。ネット社会の危険性を再認識するとともに、SNSの諸問題を自分事として捉えていることが伺えます。

県教育委員会学校安全課が毎年実施している「情報モラル調査」によると、携帯電話の所持率は、小学校低学年の25%に始まり、中学校卒業時は80%を超えるなど、年々増加傾向にあり、低年齢化は顕著です。また、GIGAスクール構想による一人一台端末の普及から3年が経過した今、タブレット端末は多くの児童生徒にとってさまざまな学びを創造する上で、欠かせない「道具」となりつつあります。こうした中、「〇〇は危険だからやめましょう」という情報モラル教育から、デジタル技術を用いる中で、必要なスキルを身に付ける教育への移行が必要となっています。デジタル機器なしには生活が成り立たない今、上記の生徒のように、どのように活用していくかを考えることが、社会参画につながります。今回は、情報活用能力の育成の一環として、本市の取組の重点について紹介します。

2 各校の取組

大垣市内の学校においては、年間3回の情報モラル教育を行っています。例えば道徳の授業や、全校集会、お昼の放送等、さまざまなところで、情報モラルに関わる指導がなされています。また、教育委員会や警察、連携協定を締結している企業の担当者を講師とした情報モラル講話を行っています。

3 教育総合研究所の取組

(1) 児童生徒・保護者向け情報モラル講演

各校の依頼に応じて、以下のような内容で児童生徒・保護者向けの情報モラル講演を行っています。



情報モラル講話

- ① 情報モラル教育全般
- ② ゲーム依存と予防法
- ③ 画像の投稿とSNSトラブル
- ④ GIGAスクール構想と一人一台端末
- ⑤ スマホの利用と心構え

昨年度はさまざまな学校や外部機関から、計14回の要請がありました。

	R 5	R 4	内容
小学校児童対象	4 回	2 回	①
中学校生徒対象	2 回	2 回	①③
小・中入学説明会	2 回	2 回	①②
高等学校生徒対象	1 回	1 回	①
家庭教育学級・PTA	2 回	1 回	①⑤
その他	3 回	0 回	①②④

(2) 一人一台端末の活用方法の周知

市内学校向けに、各学期に1度のGIGA支援訪問を行っています。支援員や指導主事が実際に授業参観後にまとめた活用例を「大垣市版GIGA活用サイト」に掲載し、市内教職員に広めています。

また、長期休業期間には、個人・グループを問わず、先生方の希望に応じてタブレット活用研修会などを行い、効果的な活用はもちろ



タブレット活用研修

ん、使用上懸念されるモラル面の指導のポイントについてのアドバイスも行っています。

今後も活用と指導の両輪を大切にして、情報活用能力の育成に努めて参ります。

(大垣市教育総合研究所 押谷 一衛)

なぞの大垣城主 伊藤盛景・盛正父子 もりかげ もりまさ KAGAYAKI SPOT

はじめに

今回紹介する伊藤氏（盛景・盛正）は、関ヶ原合戦直前の大垣城主です。天正18年（1590）、豊臣秀吉が小田原の北条氏を攻めた時、伊藤盛景は兵320人を率いて戦に参加し、3万石に増加されて大垣城主となりました。



大垣城

1 大垣城主になる前の伊藤盛景

伊藤盛景は、伊藤氏の家譜によると、石津郡船岡城主（海津市の駒野城）伊藤^{すけしげ}祐重の子です。土岐氏を滅ぼした斎藤道三に従わなかったため、道三に城を攻められ、尾張国（現・愛知県）に逃げました。

その後、織田信長・豊臣秀吉に仕えましたが、大垣城主となる前、どこにいたのかわかりません。伊藤盛景は小田原の北条攻めで兵320人を率いていますので、当時の石高に応じた兵士の負担数から計算すると、その石高は1万3千石程となります。この領地がどこにあったのか、お城を持っていたか等、確認できる資料がありません。

2 大垣城主 伊藤盛景

大垣城主となった伊藤盛景は、文禄元年（1592）の朝鮮出兵に従軍しました。盛景は朝鮮半島には渡海せず、肥前国の名護屋城（現・

佐賀県唐津市）の留守部隊として、名護屋城の普請等を担当しました。

3 大垣城主 伊藤盛正

慶長4年（1599）、父親の伊藤盛景が死去したため、子の盛正が跡を継ぎました。

翌5年、関ヶ原合戦の際、城主であった盛正は大垣城を石田三成に明け渡し、今村（現・大垣市本今町）に退去しました。

当初、垂井まで来た三成が、大垣城を明け渡すように使者を送って説得しますが、盛正は先祖に申し訳ないとして、城を出ませんでした。

三成は再度、大垣城へ使者を送りましたが、今度は大垣城下の人達が門を閉ざして、使者を追い返そうとしました。

最後に三成は、「これは、豊臣秀頼様の命令である」と伝えて、ようやく大垣城に入ることができました。

4 関ヶ原合戦後の伊藤盛正

伊藤家の由緒書によると、関ヶ原合戦後の盛正は、浪人となり、最初は安芸国（現・広島県）の福島正則の所に身を寄せていましたが、元和6年（1620）加賀



伊藤家菩提寺の松月寺（金沢市）

国（現・石川県）の前田家を頼って、前田家に仕官し、元和9年、金沢で病死しました。

（大垣市立図書館 歴史研究グループ

児玉 剛）

さらに魅力アップ！ 来て見て大垣城！！

大垣市大垣城館長 高木 勝史

1 魅力あふれる大垣城

大垣城は、昭和11年（1936）に国宝に指定されましたが、同20年の戦災で焼失。同34年に再建されてから現在に至るまで、城下町大垣のシンボルとなっています。



【春の大垣城】

全国でも珍しい4層4階総塗ごめ様式の白亜で秀麗な天守を持つ大垣城は、「続日本100名城」に選定され、市の

「景観重要建造物」にも指定されています。

城内では、関ヶ原合戦や、江戸時代の人々の暮らしを知ることができる資料等を展示しています。また、大垣城の歩みの映像やアニメ「おあむ物語」、4階からの眺望も、皆さんの目を楽しませています。



【ジオラマ「杭瀬川の戦い」】

そんな魅力あふれる大垣城ですが、昨年から、さらに楽しみ所が増えました。

2 大好評！誰もが楽しめる「大垣城クイズ」

「大垣城クイズ」は、城内を回りながら展示や解説をヒントに全10問（職員作成）を解くクイズ（「上級編」もあり）です。



【大垣城クイズ】

無料で参加でき、全問正解者には、職員手作りのプレゼントを贈っています。現在までに5000人を超える参加があります。「大垣城のことがよく分かった。」「旅のよい記念。楽しいクイズ！」等のお声をいただき、大好評です。クイズをとおして、城の歴史や展示内容について、より理解してもらえるようになったと実感しています。

3 ふれてさわって実感！「体験コーナー」

コロナ禍で休止していた武具（複製品）の「体験コーナー」が3年ぶりに復活しました。

入場者の皆さんが、実際に槍を手にしたり、弓を引いたり、火縄銃を担いで構えたりして楽しんでいます。ポーズをとって記念写真を撮る方々も多いです。



【体験コーナー「火縄銃」】

体験された方々からは、「弓を引くのは、硬くて大変だったが、面白かった。」「火縄銃がこんなに重いとは思わなかった。」「槍が長いことに驚いた。」「こんな体験ができるお城は初めて。感激しました！」等、満足度の高いお声をいただいています。驚きと笑顔あふれる城内の異次元の体験コーナーとなっています。

4 若き次世代に託す期待

さて、今年的大型連休は、連日1000人を超える入場者でにぎわった大垣城でした。

観光客の一方で、市内の幼小中高の園児・児童生徒の皆さんにも、園・学校をあげて、大垣城を訪れていただいています。

先日、見学を終えたある中学生から、こんなお礼状が届きました。

「（中略）今回、実際にインタビューさせていただいて、大垣城がどれほど多くの市民から愛されているかがよく分かりました。僕も、前より一層大垣城のことが好きになりました。今回学ぶことができた大垣城の歴史や文化に誇りをもち、その素敵な部分を多くの人にこれから発信していきたいです。（後略）」

若き次世代が、この大垣城を誇りに思い、その魅力を自慢いっぱい語っていくために、館長として自分は何ができるのかと、思わず襟を正した次第です。

皆さん、さらに魅力アップした大垣城に、どうぞお越しください。



～ 文教のまち 大垣 ～

第61回 大垣市文教協会総会

令和6年5月30日（木）第61回大垣市文教協会総会を大垣市情報工房において開催しました。会場では、参集された役員、特別会員の皆様、各学校・各園の代表の皆様、学校・各園の教職員、賛助会員の皆様にオンラインでつなぎ、総勢800人を超す参加者で、開催しました。

第1部の総会では、市長石田仁様からご祝辞を頂戴しました。小川信也会長は、令和6年度より変更となる事業、60周年記念事業への想いについて述べられました。続いて、令和5年度事業並びに決算報告、令和6年度事業計画並びに予算が報告されました。

第2部では、大垣市文教協会60周年記念事業

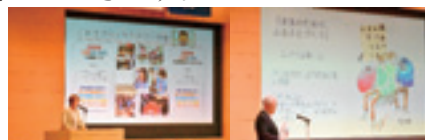
（子どもが主人公の「未来のすてきな大垣」づくり事業）に関連して、おおがきこども未来カレッジ富田啓子様から、「おおがき子どものまちスマスタウン」の活動目的、事業説明、一般社団法人GLIP栗山一郎様から、活動目的やこれまでの事業についてご説明いただきました。

また、事務局より『子どもが主人公の「未来のすてきな大垣」づくり事業』として実施する「大垣市×SDGsお化け」の事業説明、令和6年5月19日（日）に実施した発表会・表彰式の様子について紹介しました。

子どもが主人公の「未来のすてきな大垣」づくり事業については、会報、HP等で随時情報を更新していきます。



第1部 総会の様子



第2部 60周年記念事業に関する説明の様子
(学校教育課 高木 あや・鈴木 宏教)

ふるさと美術散歩⑦ 大垣市守屋多々志美術館を訪ねて



《扇面源氏物語》より乙女「女官の集い」



《扇面源氏物語》より橋姫「合奏」
ともに平成3年（1991）（個人蔵）

「いづれの御時にか、女御、更衣あまたさぶらひたまひけるなかに」で始まる『源氏物語』。今年のNHK大河ドラマ「光る君へ」の主人公、紫式部が書き著したこともあり、脚光を浴びていますが、これまでもさまざまな人が絵巻物や小説、漫画などでその世界観を表現してきました。

大垣市出身の日本画家、守屋多々志もその一人で、舟橋聖一著『新釈源氏物語』の挿絵や、前回の「ふるさと美術散歩」でも取り上げた《花源氏》など、源氏物語を題材とした作品は枚挙にいとまがありません。

今回紹介する《扇面源氏物語》は、平成3年（1991）、源氏物語の場面を130枚の扇面画として表現したものです。扇面画とは平安時代から続く画面形式の一つで、扇形という特殊な空間に絵を描くため、構図上の制約がある一方で、さまざまな工夫が凝らされてきました。

《扇面源氏物語》では、乙女「女官の集い」のように、天井を取り去り室内を表現する「吹抜屋台」という昔からの伝統技法で描いている一方、橋姫「合奏」のように、暗めの色調に人物を配さず、直線で構図を分割するという新しい表現方法も試みています。構図に悩みながらも、独自の解釈で楽しみながら描いた守屋多々志の様子を見て取れるようです。

企画展「時代を超える物語—守屋が描いた源氏—」
会期：令和6年7月20日（土）～9月23日（月・振）
前期（～8/19）と後期（8/21～）で一部展示替え
内容：源氏物語を題材とした作品を中心に展示

